

令和5年度 事業報告

1 概況

令和5年度は、第3次中期計画の2年目として、新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけが5類となるなか、感謝祭の開催や各種マラソンボランティアへの参加はもとより、会員親睦旅行や役員視察研修を再開するなど、積極的な事業実施に努めました。

会員拡大については、地域開催も含めた積極的な入会説明会の実施などにより、会員数は3月末で2,168人と令和4年度末と比べ101人の増加となり、中期計画の目標値2,160人を上回ることができました。

契約金額については、中期計画の目標値には届きませんでした。前年度と比べ、請負・委任事業で0.2%の微増、派遣事業は11.7%の増加となりました。

事業実績については、契約金額8億9,877万円(請負・委任6億5,511万円、派遣事業2億4,366万円(前年度対比3.1%増))、受注件数8,167件(請負・委任7,879件、派遣事業288件(前年度対比1.4%減))となっております。

こうした成果を得ましたことは、会員、役職員がひとつになって事業運営に取り組んできた賜物であると感謝するとともに、これからも、共に働き、共に助け合う多くの会員の皆様とともに、地域の皆さまの期待と信頼にこたえられる魅力あるセンターとして、事業運営に取り組んでまいります。

以下、令和5年度に実施した主な事業について報告いたします。

(1) 安全・適正就業の提供事業

- ① 安全就業の徹底、「目指せ、事故ゼロ！」を安全目標に掲げ、除草・剪定現場(11現場16班)のみならず、JA、スーパー、食品工場等における一般作業のパトロールも実施し、より多くの作業現場の安全確認と指導・アドバイスを行いました。
- ② 安全就業促進のための「安全・安心のつどい」を総合体育館で開催し「交通安全講話」による安全の意識の向上を行うとともに、「日常でできるちょこっと体操」をテーマに、楽しく体を動かすコツを体感しました。(204名参加)
- ③ 飛び石事故対策のため、草刈シーズン前に「草の刈り方講習」を実施した結果、正しい刈り方が身につき、事故軽減につながりました。

- ④ 適正な就業形態を確保するため、新規の受注にあたっては「適正就業ガイドライン」を活用しながら、発注者に適正な就業方法等を周知し理解を得ました。
- ⑤ 安全標語（安全就業の部、交通安全の部）を募集した結果、前年度の約1.5倍の会員からの応募があり、安全意識の高揚を図ることができました。
- ⑥ 適正就業によるワークシェアリングを行い、就業会員の増加に努めました。
- ⑦ 派遣事業において定期に開催される衛生委員会では、就業先における現場での就業状況や諸問題、労災事故について産業医を交え検証しました。
また、Zoom配信で開催された「交通安全等教育訓練」に参加しました。

(2) 組織基盤強化事業

- ① ハローワークにおいて毎月、来場者にシルバー人材センターの概要と入会説明会開催日の案内を行いました。
- ② 毎月開催の入会説明会については、マスクの着用を推奨するなか、定例会説明会（年24回）、出張入会説明会（年11回）、を行い会員の増加に努め、全体で、参加者数は445人、入会者数は380人となりました。
なお、入会手続きの迅速化と簡便化を図るため、入会説明会での説明内容を充実させることで会員証の交付を郵送としました。また、10月よりWEBから入会申込手続きができるようになり面談のみで入会が可能となりました。
- ③ 就業開拓の推進として、豊橋市、企業、家庭を対象に新規就業先の開拓を進め、就業情報を毎月発行し、事務所内への掲示とともに未就業会員へ毎月郵送し、マッチング調整を行いました。
- ④ 独自事業の拡充として、ソーイング班が男女共生フェスティバルで出店販売を行い、より多くの方にPRすることができました。また、刃物研ぎ班は食彩村など市内各所で活動し、販路の維持に努めました。
- ⑤ 理事会、専門部会・委員会等の一層の活性化を図り、事務局と連携しながら事業運営の強化に努めました。

(3) 普及啓発事業

- ① 会報誌「いきいきシルバー豊橋」を年3回発行し、センター事業活動の周知に努めました。
- ② 女性委員会の企画により、「健康体操ストレッチ講座」、「絵手紙講座」、「ラッピング講座」、「味噌づくり講座」を開催しました。また、令和6年度に「五平餅づくり講座」を開催するための試作を行いました。
- ③ 地域貢献活動については、鈴木亜由子杯 穂の国・豊橋ハーフマラソン20

24において、199名がボランティアとしてお馴染みのオレンジジャンパーを着て参加し、存在感を大いにPRしました。また、地域班の活性化を目的として市内9公園と石巻山登山道で一斉清掃を行い、272名が参加し地域貢献に努めました。

④ 52校全小学校で実施している派遣事業の「のびるndeスクール」では、就業会員がおそろいのオレンジジャンパーや腕章をつけ、各地域での普及啓発に努めました。

⑤ センター事業を周知するため、定時総会の様子やイベントなどを開催する際には、新聞社への情報提供をはじめ、10月から3月まで豊橋商工会議所発行の月刊紙「ニューボイス」に広告の掲載をしました。

また、10月の普及啓発月間には市内電車の中吊りに会員募集の広告を掲出しました。

(4) 各種講習、研修、訓練事業

会員の知識、技能の向上等を図るため、美味しいコーヒーの淹れ方、ウォーキング、除草・剪定などの各種講習会を実施しました。また、総務省の「デジタル活用支援推進事業」及び厚労省の「デジタル利用促進事業」を活用した初心者向けスマホ教室を実施し、市内在住の高齢者や会員のデジタル格差を解消できるよう取り組みました。なお、X（旧Twitter）、インスタグラムより講習会等の様子を配信し、センター活動の周知に努めました。

(5) 指定管理事業

老人福祉センターにおいては、昨年5月のコロナの5類移行があり回復基調への期待がありましたが、施設の老朽化による一部設備の休止等もあり、前年度と比較し利用者数は4,821人の減少となりました。

高齢者活動センターにおいても利用者は伸び悩み、前年度より1,667人の減少となりました。

(延べ利用者数：老人福祉センター161,273人、高齢者活動センター16,199人)

なお、青少年センターのちょこっと講座では、シルバー人材センターの自主事業として新たに「巣箱づくり」「写真立てづくり」「クリスマスラッピング」に取り組むなど、世代を超えた交流に努めました。